

## 「ばあちゃんの格闘」

秋田県 平川蓮

僕は野球をしている。野球はとても面白いスポーツだ。世界中の人々に愛されている野球は僕の人生でもある。毎日、一日中野球をしていた時期もあった。プロ野球中継を見てホームランを打つ打者や、早い球を投げる投手などに感動させられ、尊敬していた。

しかし、そんな素晴らしいプロ野球選手も必ず自分一人でここまで来ることができたとは思わないだろう。なぜなら、そこにはいつも親や自分の身の周りの人々が関係しているはずだから。僕も今まで何度も世話になった。特に感謝してるのはユニフォームの事だ。

中学一年の春。まだ体ができていないためにとっても大きく見えたユニフォーム。そのユニフォームを着て練習する。雨の日も雪の日も一緒に練習して、一緒に泥だらけになる。そんなユニフォームを毎日、洗濯してくれるのはばあちゃんだ。

「ただいま。」と泥だらけで帰ってきてても嫌な顔ひとつせずに「おかえり、今日も頑張ってきたんだね。」と言って洗濯してくれる。家事で忙しくても必ずしてくれる姿を見る度にいつも心の中でもっともっと頑張ろうと思う。

ある日、ユニフォームがとてもキレイなまま練習から帰って来たことがあった。その日は練習が軽めだったためにいつもほど汚くなかった。僕は今日は洗濯が楽だから良かったと思って様子を見ていた。すると、ばあちゃんはいつもよりやりがいがないせいなのか分からないが少しもの悲しそうな表情をしていた。ことのき、子供ながらに気付かされた。きっとばあちゃんにとって、ユニフォームの泥は僕の頑張りの証となっていたのだろう。そう思うと今日の自分の頑張りは足りなかったと反省し、明日の練習へ切り替えた。

そして翌日、いつも以上の泥がついたユニフォームで帰った。ばあちゃんは嬉しそうだった。今日もばあちゃんは泥と格闘する。